

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2		
年組	1年1組		教科書(発行所)	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 自分らしい人生をつくる	(1)生涯発達の視点	○	○	○	学習の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通してよりよい社会の構築に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。	
5		(2)青年期の課題 アイデンティティの確立	○	○	○		
		(3)目標を持って生きる	○	○	○		
		(4)人生をつくる	○	○	○		
		(5)家族・家庭を見つめる	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		(6)これからの家庭生活と社会	○	○	○		
6	第7章 衣生活をつくる	〃	○	○	○	授業の進め方 1 生活を主体的に営むために必要な知識と技術を身に付ける。 2 家庭科ノートや調理実習ノートを活用する。 3 話し合い活動や資料制作・発表を通して、主体的に学習に臨む態度を身に付ける。	
7		(1)被服の役割を考える	○	○	○		
		〃	○	○	○		
7	第3章 高齢社会を生きる	(2)被服を入手する ホームプロジェクトの計画	○	○	○	学習の方法 家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活の各分野について、これまでの自分を客観的に振り返りながら学習する。健康を維持し家庭生活を向上させるためにはどうすればよいかを常に考える。さまざまな実習に積極的に取り組み基本的な技術を身に付ける。	
8		ホームプロジェクトの計画と実施	○	○	○		
		(2)被服を入手する	○	○	○		
		(3)被服を管理する	○	○	○		
9		(5)衣生活の文化と知恵	○	○	○		
		(6)これからの衣生活	○	○	○		
		(4)被服をつくる(製作実習)	○	○	○		
10		(4)被服をつくる(製作実習)	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
		〃	○	○	○		
11		(1)高齢期を理解する	○	○	○		
	〃	○	○	○			
	(2)高齢者の心身の特徴	○	○	○			
12	〃	○	○	○	評価の観点 1 知識・技能 各分野において習得すべき知識や技能を身に付けているか。 2 思考・判断・表現 課題解決のための思考力・判断力や表現力を身に付けているか。 3 主体的に学習に取り組む態度 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているか。		
12	第5章 共に生き、共に支える	(3)高齢者を支える	○	○		○	
		(4)これからの高齢社会	○	○		○	
		高齢者福祉体験	○	○		○	
1		(1)私たちの生活と福祉	○	○		○	
			○	○		○	
			○	○		○	
2		(2)社会保障の考え方	○	○		○	
		(3)共に生きる	○	○		○	
		(4)これからの生活を創造する	○	○		○	
3						評価の方法 1 観察、ワークシート、感想文、作品、作業など 2 ワークシート、レポート、実習記録など 3 ペーパーテスト、ワークシート、レポート、自己評価、相互評価など	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	
年組	1年2組・3組		教科書(発行所)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ	(1)人生を展望する (2)目標を持って生きる (1)人生をつくる	○	○	学習の目標 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活の向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。	
5		(2)家族・家庭を見つめる (3)これからの家庭生活と社会	○	○		
6		家族を守る(減災講座) (1)命を育む (2)子どもの育つ力を知る (3)子どもと関わる (4)子どもとのふれあいから学ぶ (5)これからの保育環境	○	○		
7			○	○		
					授業の進め方 教科書を用いて授業の目標を確認し、内容を理解させる。家庭科ノートに自分の考えや感想をまとめ記入させる。各分野において実験・実習を行うことによりさらに深く理解させたり、技術を習得させたりする。	
7	第4章 超高齢社会を共に生きる	(1)超高齢社会を共に生きる (2)高齢期の心身の特徴 (3)これからの超高齢社会	○	○	学習の方法 家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活の各分野について、これまでの自分を客観的に振り返りながら学習する。健康を維持し家庭生活を向上させるためにはどうすればよいかを常に考える。さまざまな実習に積極的に取り組み基本的な技術を身に付ける。	
8		第6章 食生活をつくる	(1)食生活の課題について考える (2)食事と栄養・食品 調理実習①	○		○
9			(3)食品の選択と安全 (4)生涯の健康を見通した食事計画 調理実習②	○		○
10			(5)調理の基礎(6)食生活の文化と知恵 調理実習③	○		○
11	第7章 衣生活をつくる	(7)これからの食生活 (1)被服の役割を考える(2)被服を入手する (3)被服を管理する(4)衣生活の文化と知恵 (5)これからの衣生活 被服製作実習	○	○		
12		第10章 持続可能な生活を営む	〃 〃 (1)持続可能な社会を目指して	○	○	
					評価の観点 1 知識・技能 各分野において習得すべき知識や技能を身に付けているか。 2 思考・判断・表現 課題解決のための思考力・判断力や表現力を身に付けているか。 3 主体的に学習に取り組む態度 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているか。	
12	第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	(1)住生活の変遷と住居の機能 (2)安全で快適な住生活の計画 (3)住生活の文化と知恵 (4)これからの住生活	○	○	評価の方法 1 観察、ワークシート、感想文、作品、作業など 2 ワークシート、レポート、実習記録など 3 ペーパーテスト、ワークシート、レポート、自己評価、相互評価など	
1		(1)情報の収集・比較と意思決定 (2)購入・支払いのルールと方法 (3)消費者の権利と責任 消費者支援講座	○	○		
2		第5章 共に生き、共に支える	(4)生涯の経済生活を見通す (5)これからの経済生活	○		○
3	これからの生活を創造する	(1)私たちの生活と福祉 (2)社会保障の考え方 (1)これからの生活を創造する	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第6章 食生活をつくる	(1)食生活の課題について考える		○	○	学習の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通してよりよい社会の構築に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。
5		(2)食事と栄養・食品 調理実習①		○	○	
6		(3)食生活の安全と衛生	○		○	
7		(4)生涯の健康を見通した食事計画				
8		(5)調理の基礎 調理実習②	○	○	○	
9		(6)食生活の文化と知恵	○	○		
10				○	○	
						授業の進め方
7	第8章 住生活をつくる	(1)住生活について考える				1 生活を主体的に営むために必要な知識と技術を身に付ける。 2 家庭科ノート・調理実習ノートを活用する。 3 話し合い活動や資料制作・発表を通して、主体的に学習にのぞむ態度を身に付ける。
8		(2)住生活の計画と選択	○		○	
9		住生活実習	○		○	
10		住生活実習	○		○	
11		住生活実習	○	○		
12		(3)住生活の文化と知恵	○	○		
1		(4)これからの住生活	○	○	○	
						学習の方法
12	第2章 子どもと共に育つ	(1)命を育む	○	○	○	家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活の各分野について、これまでの自分を客観的に振り返りながら学習する。健康を維持し家庭生活を向上させるためにはどうすればよいかを常に考える。さまざまな実習に積極的に取り組み基本的な技術を身に付ける。
1		(2)子どもの育つ力を知る				
2		(3)親として共に育つ (4)子どもの触れ合いから学ぶ	○	○	○	
3		(5)これからの保育環境	○			
4		(1)私たちの生活と福祉	○			
5		(2)社会保障の考え方	○			
6		(3)共に生きる 生涯を見通す	○	○		
						評価の観点
12	第4章 共に生き、共に支える	(1)命を育む	○	○	○	1 知識・技能 各分野において習得すべき知識や技能を身に付けているか。 2 思考・判断・表現 課題解決のための思考力・判断力や表現力を身に付けているか。 3 主体的に学習に取り組む態度 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているか。
1		(2)子どもの育つ力を知る				
2		(3)親として共に育つ (4)子どもの触れ合いから学ぶ	○	○	○	
3		(5)これからの保育環境	○			
4		(1)私たちの生活と福祉	○			
5		(2)社会保障の考え方	○			
6		(3)共に生きる 生涯を見通す	○	○		
						評価の方法
12	第9章 生活を設計する	(1)命を育む	○	○	○	1 観察、ワークシート、感想文、作品、作業など 2 ワークシート、レポート、実習記録など 3 ペーパーテスト、ワークシート、レポート、自己評価、相互評価など
1		(2)子どもの育つ力を知る				
2		(3)親として共に育つ (4)子どもの触れ合いから学ぶ	○	○	○	
3	(5)これからの保育環境	○				
4	(1)私たちの生活と福祉	○				
5	(2)社会保障の考え方	○				
6	(3)共に生きる 生涯を見通す	○	○			
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	3			
年組	3年1組		教科書(発行所)	子どもの発達と保育 新訂版(実教出版)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目	
			関	思	技	知		
4	1章 子どもの発達 の特性	1節 発達と乳幼児期の意義	○			○	学習の目標 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。また、乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児にかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。	
5		2節 発達と保育環境	○			○		
6		3節 児童観と発達観		○		○		
7		2章 子どもの発達 の過程	1節 子どもの発育	○				○
8			2節 子どもの精神発達	○				○
9			3節 人間関係の発達	○	○			
10			1節 生活と養護	○				○
11	3章 子どもの生活	2節 子どもの遊び	○			○		
12		3節 生活習慣の形成		○		○		
1		4節 健康管理と事故防止 保育演習 保育演習	○	○		○		
2		4章 子どもの保育	1節 保育の意義と重要性	○			○	
3			2節 家庭保育と集団保育	○	○		○	
4	5章 子どもの福祉	3節 保育の方法				○		
5		1節 子どもの福祉	○	○		○		
6		2節 子育て支援 地域と子育て	○	○		○		
7			○			○	授業の進め方 教科書に従って、ワークシートを記入させる。ビデオを視聴したり、保育人形を使い保育技術を指導する。遊びの学習では手作り遊具を作る、折り紙を折るなどの実習を行い技術を身につけさせる。	
8			○			学習の方法 教科書や視聴覚教材の活用により、乳幼児の発育や発達に関する基本的知識を学習する。また、保育人形や保育用具の実物見本などを活用し、乳幼児の衣食住生活に関する実習によって保育技術を習得する。		
9			○					
10			○					
11			○			○	評価の観点 1 関心・意欲・態度 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているか。 2 思考・判断・表現 課題解決のための思考力・判断力や表現力を身に付けているか。 3 技能 各分野において習得すべき技術を身に付けているか。 4 知識・理解	
12			○			○		
1			○			○	評価の方法 1 観察、ワークシート、感想文、作品など 2 ワークシート、レポート、実習記録など 3 作品、作業、自己評価・相互評価など 4 ペーパーテスト、ワークシート、レポートなど	
2			○			○		
3			○			○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	2			
年組	3年2組		教科書(発行所)	子どもの発達と保育 新訂版(実教出版)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目	
			関	思	技	知		
4	1章 子どもの発達の特性	1節 発達と乳幼児期の意義	○			○	学習の目標 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。また、乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児にかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につける。	
5		2節 発達と保育環境	○			○		
6		3節 児童観と発達観		○		○		
		3節 児童観と発達観		○	○			
7		2章 子どもの発達の過程	1節 子どもの発育	○	○	○		○
		2節 子どもの精神発達	○			○		
7		3章 子どもの生活	3節 人間関係の発達	○	○			
8	1節 生活と養護 #REF!		○	○				
9	2節 子どもの遊び		○			○		
	3節 生活習慣の形成				○	○		
10	4章 子どもの保育		4節 健康管理と事故防止		○		○	
			保育演習 保育演習	○	○	○		
11	1節 保育の意義と重要性		○	○		○		
12	2節 家庭保育と集団保育	○	○		○			
12	5章 子どもの福祉	3節 保育の方法				○	学習の方法 教科書や視聴覚教材の活用により、乳幼児の発育や発達に関する基本的知識を学習する。また、保育人形や保育用具の実物見本などを活用し、乳幼児の衣食住生活に関する実習によって保育技術を習得する。	
1		1節 子どもの福祉				○		
		2節 子育て支援		○		○		
2		地域と子育て	○			○		
		3		○		○		
評価の観点								
1 関心・意欲・態度 自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているか。								
2 思考・判断・表現 課題解決のための思考力・判断力や表現力を身に付けているか。								
3 技能 各分野において習得すべき技術を身に付けているか。								
4 知識・理解								
評価の方法								
1 観察、ワークシート、感想文、作品など								
2 ワークシート、レポート、実習記録など								
3 作品、作業、自己評価・相互評価など								
4 ペーパーテスト、ワークシート、レポートなど								
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								